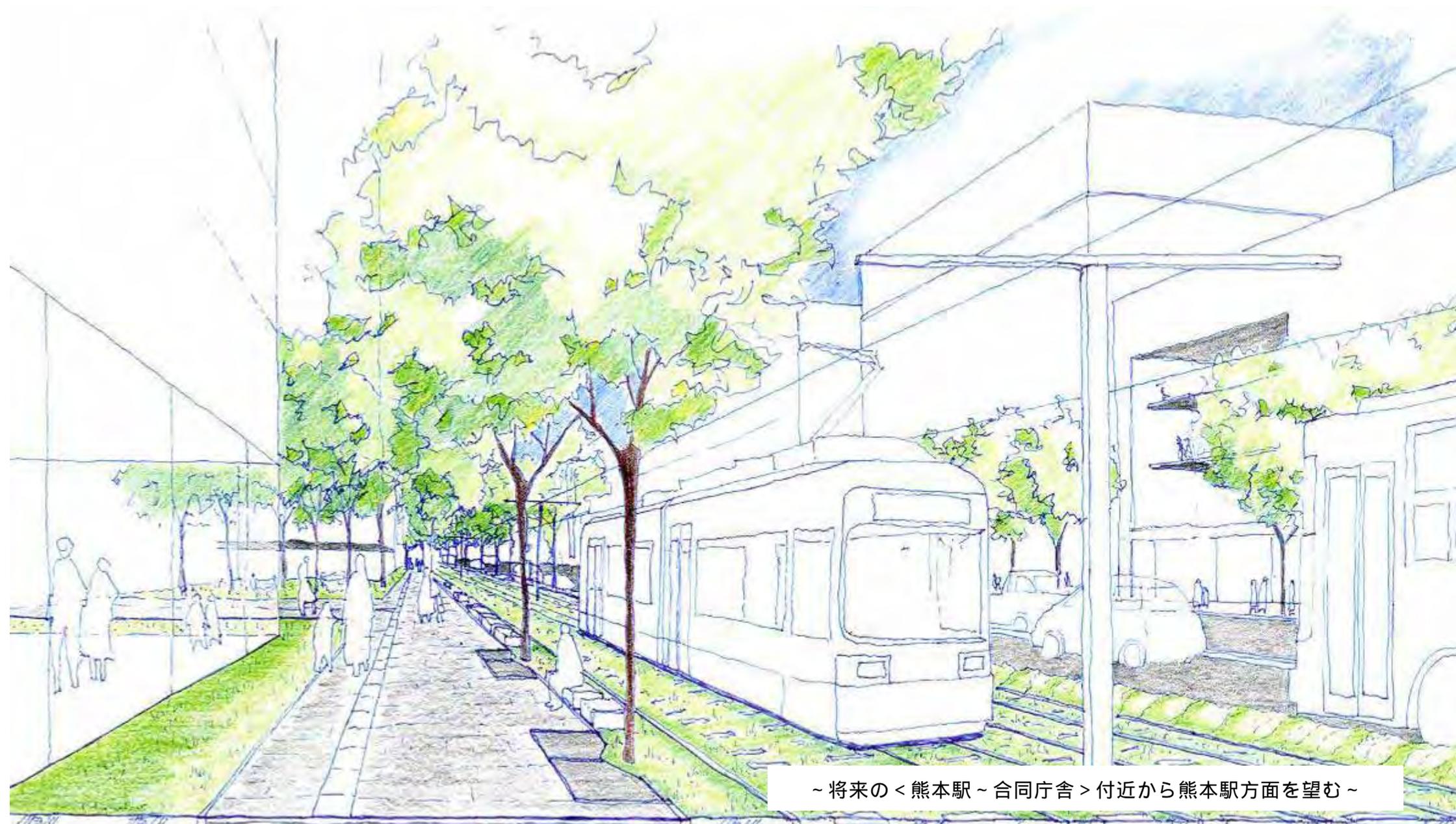


2.木立の景 ~地域とつくる木立の中を市電が走る空間~



~ 将来の < 熊本駅 ~ 合同庁舎 > 付近から熊本駅方面を望む ~

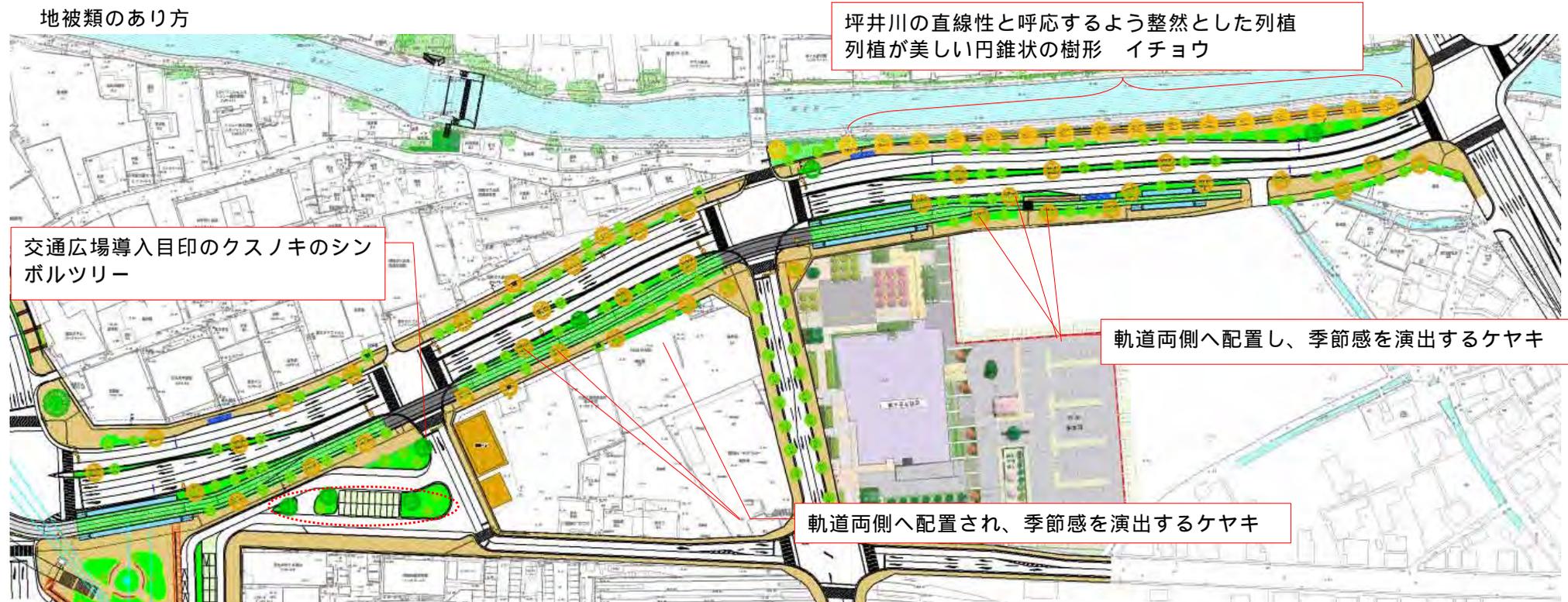
(1) 木立の景の緑の考え方

(1) 樹形と樹種の考え方

- 主木のあり方
存在感があり、樹形が美しいものとする。景のまとまりを形成
- 添景木のあり方
景に賑わいと安らぎを与える。軽やかなイメージの樹木
- 地被類のあり方

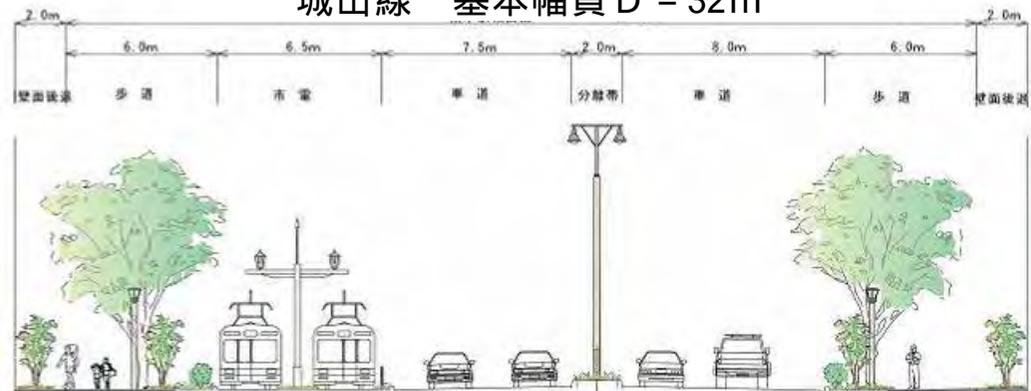
(2) 配植デザインの考え方

- クスノキ 緑を印象付けるよう要所に配置。
- ケヤキ 景全体に配置し、骨格を形成。
- イチヨウ 坪井川沿いに配置。

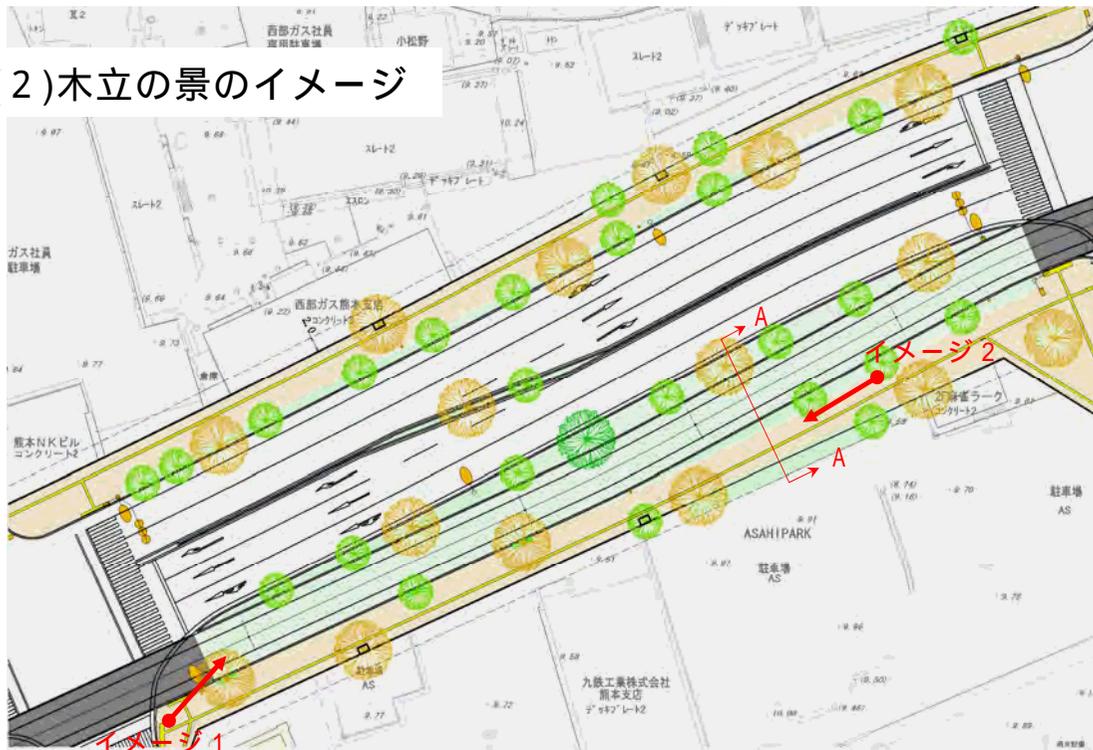


城山線 基本幅員 D = 32m

～ 横断図 (熊本駅城山線) ～



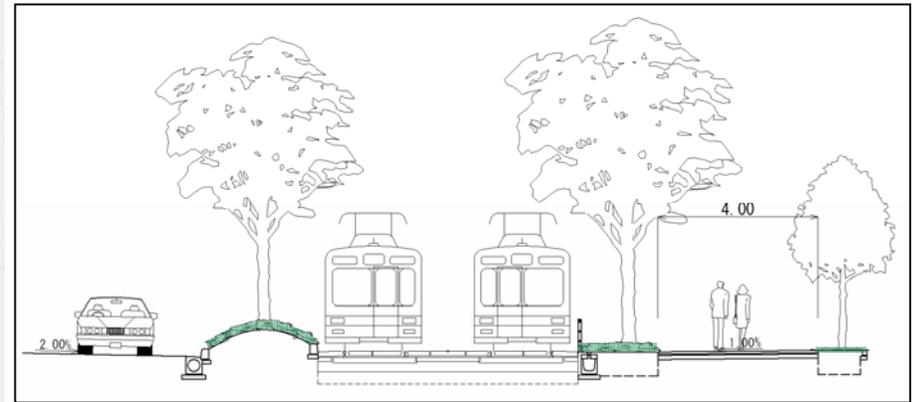
(2)木立の景のイメージ



イメージ1



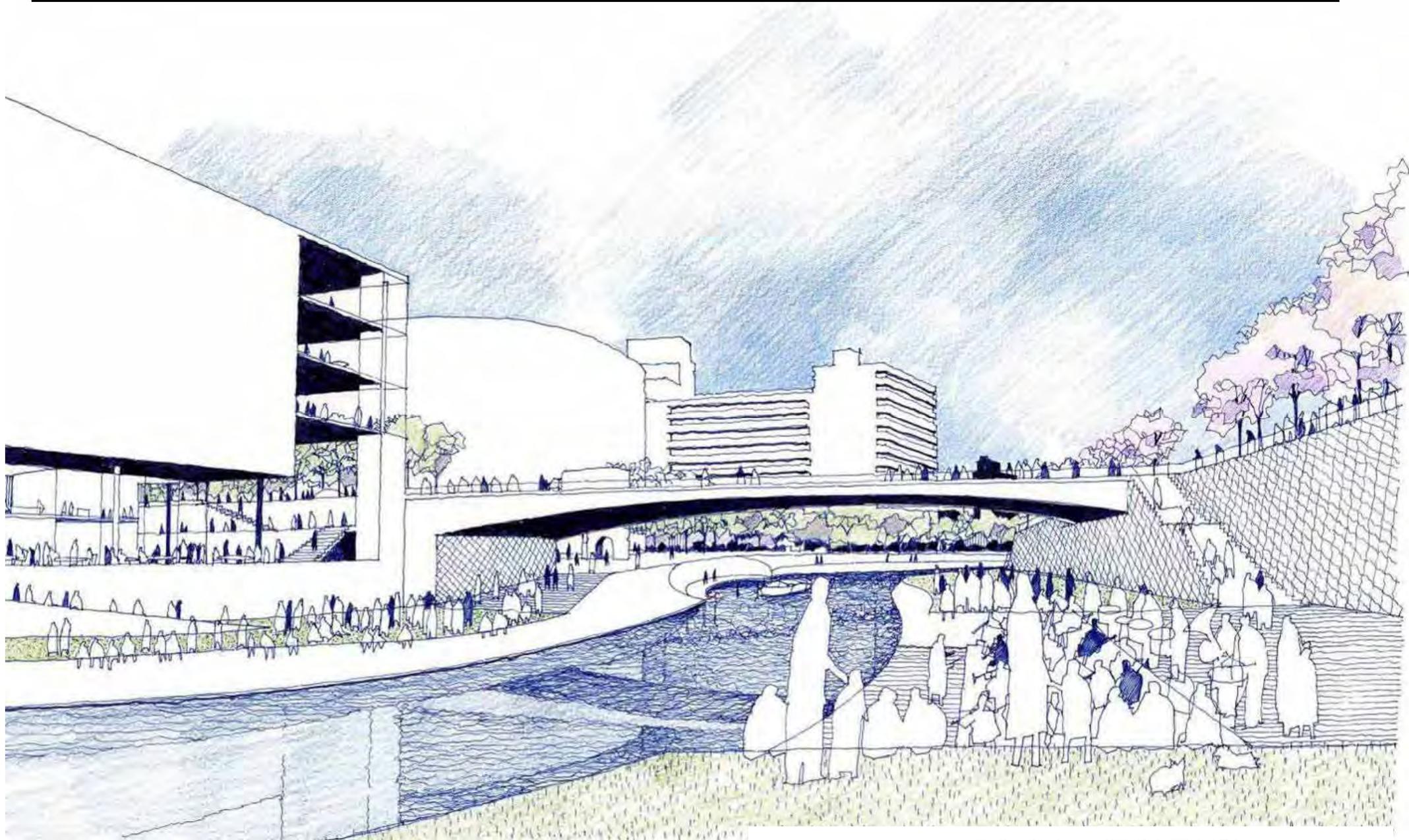
A-A 断面



イメージ2



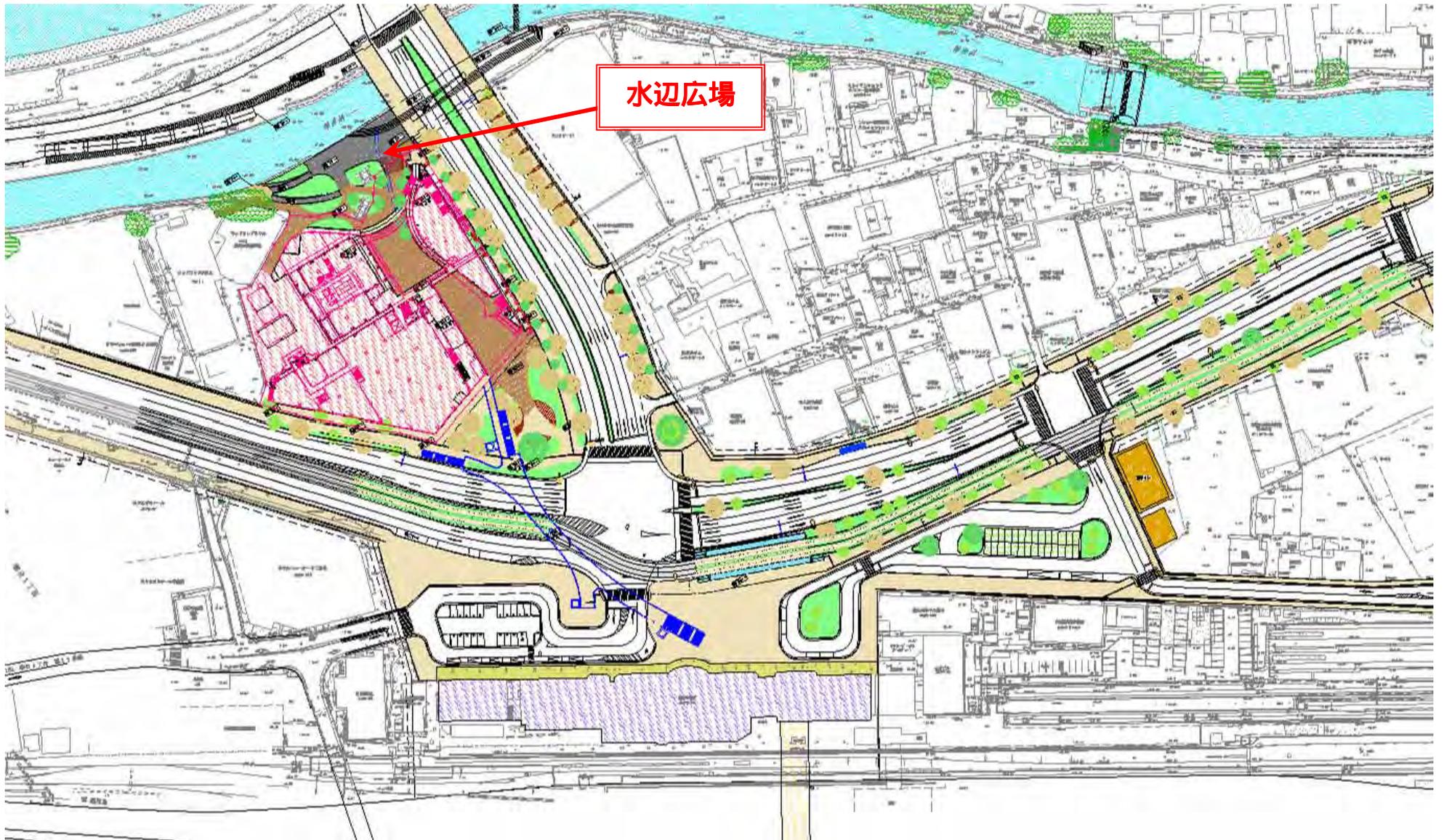
3.水辺の景 ~水辺とまちが交差する回遊空間~



~ 将来の春日橋下流から祇園橋方面を望む ~

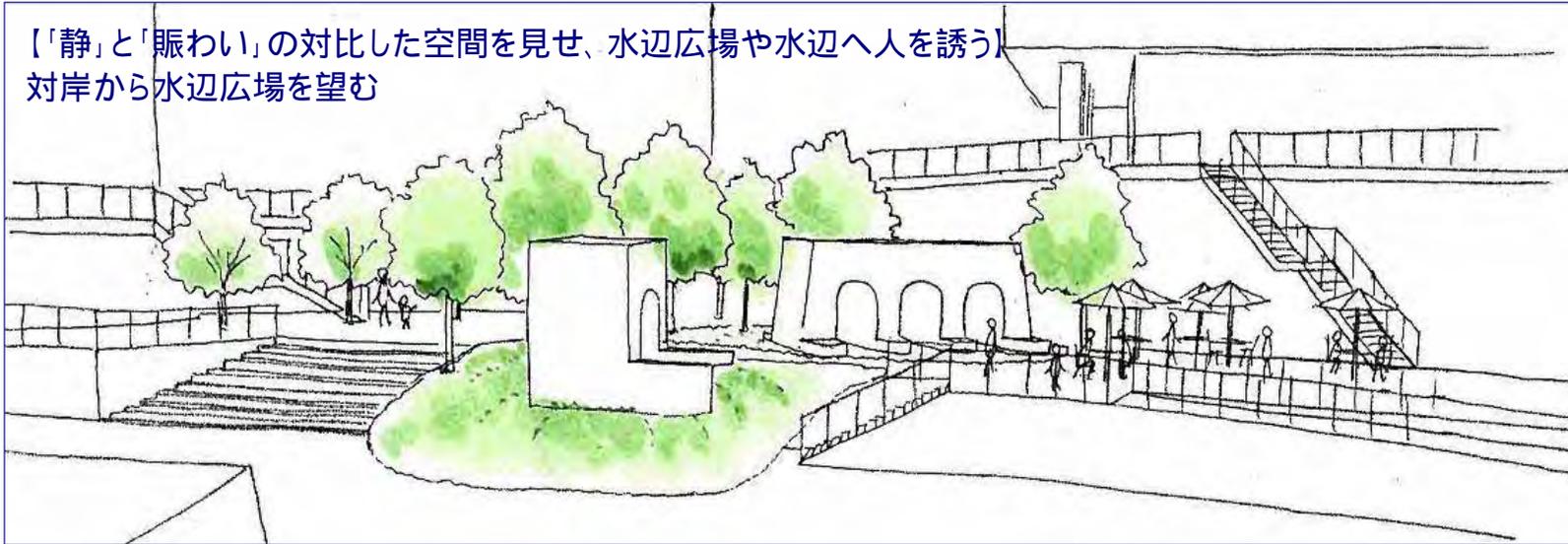
水辺広場

(1) 位置図



(2) 考え方

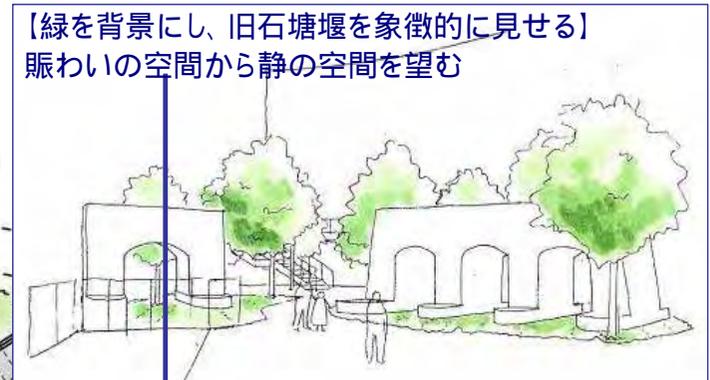
【「静」と「賑わい」の対比した空間を見せ、水辺広場や水辺へ人を誘う】
対岸から水辺広場を望む



【連続する緑によって水辺の方へ導く】
入口付近から望む



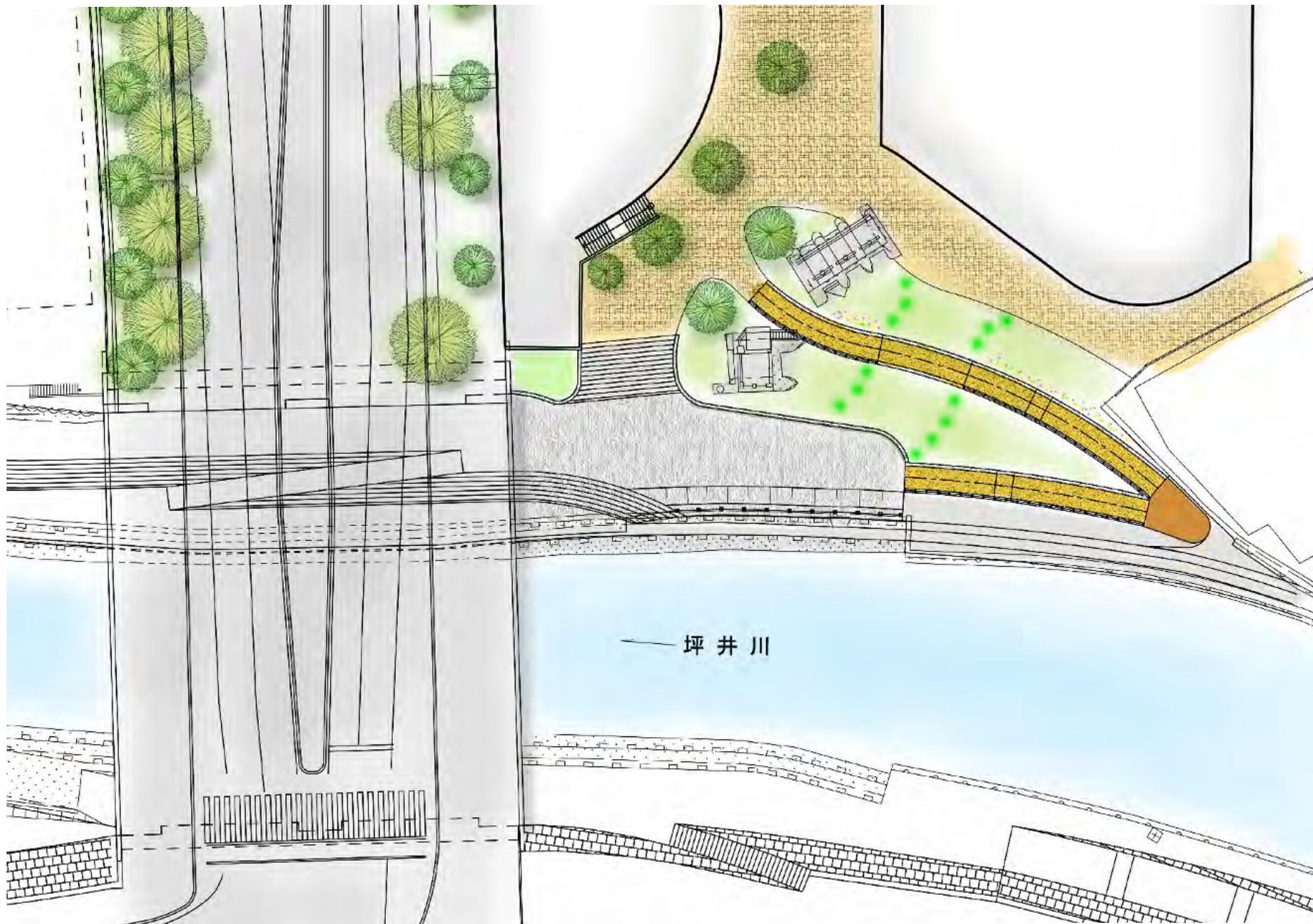
【緑を背景にし、旧石塘堰を象徴的に見せる】
賑わいの空間から静の空間を望む



【広がりのある視界で水辺へ引き込む】
賑わいにつながる場付近から水辺を望む



(3)イメージ



~ 将来の春日橋の上から水辺広場を望む ~